

地域をつなぐ「地区タイムライン」

公助・共助・自助タイムラインの統合による防災の未来像

「防災塾・だるま」塾長 Cサロン代表 鷲山龍太郎

わいわい防災マップ (洪水、内水、高潮浸水想定区域)

マップ切替

現在地 横浜市港北区大倉山2丁目付近

地形図

入力例:横浜市港区港町など

検索

探す

表示切替 全て選択 全てはずす

問合せ先

更新時点

災害危険マップ (洪水、内水、高潮浸水想定区域)

【洪水】 浸水想定区域 (想定最大規模)

- 0 < 浸水深 (m) < 0.5m
- 0.5 ≤ 浸水深 (m) < 3.0m
- 3.0 ≤ 浸水深 (m) < 5.0m
- 5.0 ≤ 浸水深 (m) < 10.0m
- 10.0 ≤ 浸水深 (m) < 20.0m
- 浸水想定区域が重複する地域 (より深い浸水深を表示)

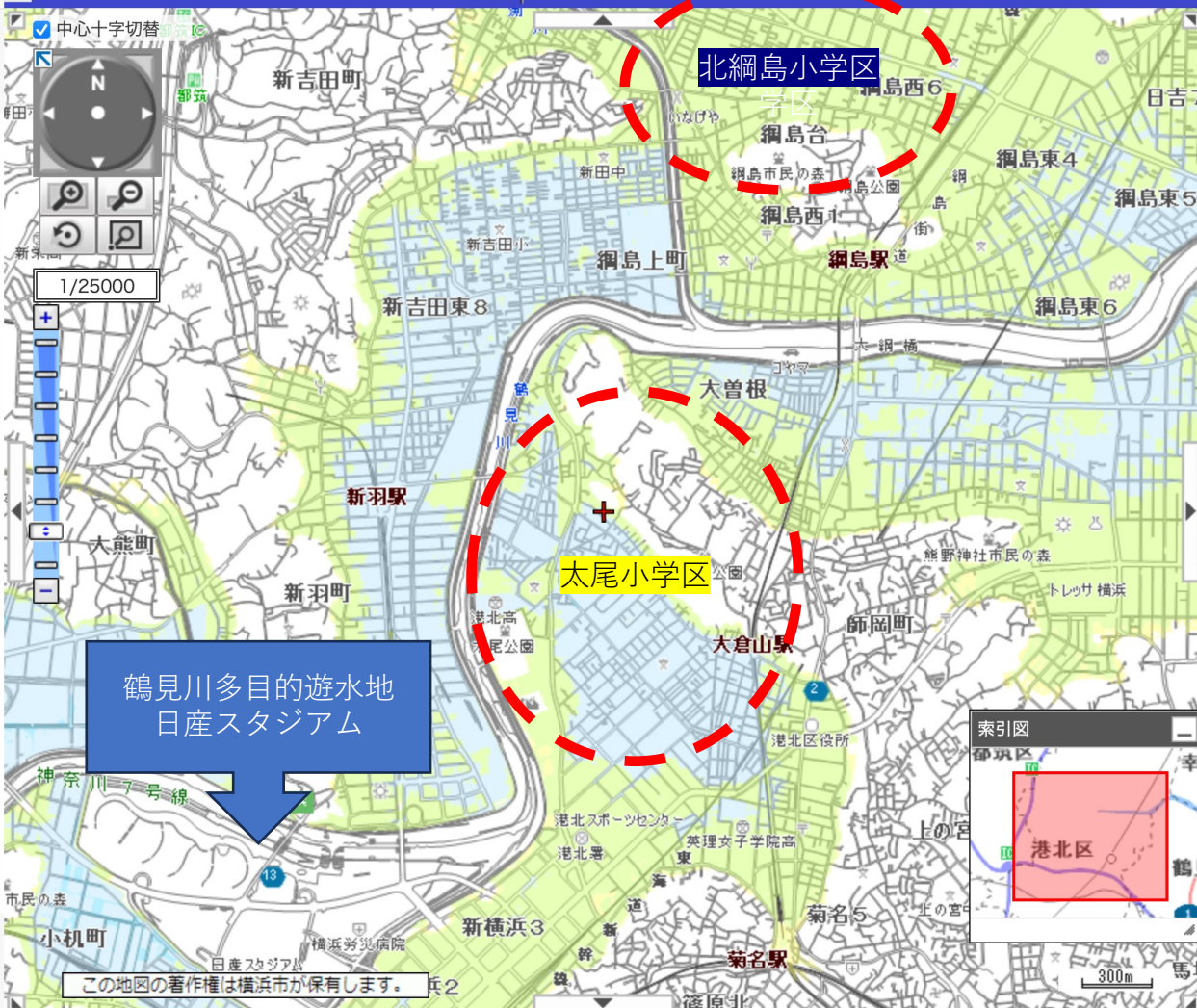
【洪水】 浸水想定区域 (計画規模等)

- 0 < 浸水深 (m) < 0.5m
- 0.5 ≤ 浸水深 (m) < 3.0m
- 3.0 ≤ 浸水深 (m) < 5.0m
- 5.0 ≤ 浸水深 (m) < 10.0m
- 10.0 ≤ 浸水深 (m) < 20.0m
- 浸水想定区域が重複する地域 (より深い浸水深を表示)

【内水】 浸水想定区域 (想定最大規模)

住所一覧から検索

品目別・施設一覧から検索
メニューを表示



鶴見川多目的遊水地
日産スタジアム





見逃し配信受付中
期間 11/28(日)
~令和4年1/10(月)

私たちの街の治水安全はどこからきたか!
鶴見川流域治水をすすめた
住民活動の歴史と未来



平井誠二氏
大倉精神文化研究所理事長
地域歴史研究家



飯田助知氏
同盟会を推進してきた
飯田家現当主



岸由二氏
慶應義塾大学名誉教授
鶴見川の水害体験者

見逃し配信 お申し込み方法

フォームに必要事項を記入して送信
<https://forms.gle/BepXYTL6al4VCBeb9>

↓
視聴URL受信

対象：大人(小学生高学年～)
無料

※配信期間 11/28(日)～12/26(日)
※個人情報はこの目的以外に使用しません
※返信がない場合はお問い合わせください

実施担当・お問合せ先 平日 10:00～17:00

NPO法人 鶴見川流域ネットワーク
Eメール: office@tr-net.gr.jp
TEL: 045-546-4337 FAX: 045-546-4344



主催：鶴見川流域水協議会
(国土交通省関東地方整備局 東京都 神奈川県 横浜市 川崎市 町田市 稲城市)
共催：連携鶴見川流域ネットワーク
協力：公益財団法人大倉精神文化研究所 横浜水大倉山記念館

2021年11月23日(火・祝)
13:30～15:30 実施済み

鶴見川は国と関連自治体が管理する一級水系です。多目的
遊水地があり、流域治水が実践され、大水害も過去の記憶と
なって、私たちはこの安全を当たり前と感じています。しかし国
が管理を始めたのは1967年(昭和42年)と最近のこと。100
年、200年に一度の豪雨がくれば、危機は再来するのです。

今年度は国の支援を求めて奮闘した鶴見川改修期成同盟会
が結成されて、100周年。その苦労の歴史をひもとき、現在そし
て温暖化未来の鶴見川流域の、安全(治水)、環境、くらしの
課題を考えます。

鶴見川流域水マスタープラン(略称水マス)

鶴見川流域を水害のない、安全で、川辺や街に多様な生きも
のがくらすことができる市民・市民団体・企業・行政が連携
して実施する施策です。

書籍紹介

鶴見川水害予防組合史 増補復刻版



企画編集は増補復刻委員会

代表は水害予防組合議長を歴任した

網島飯田家現当主 飯田助知 氏

委員は、大倉精神文化研究所 平井誠二 氏

慶應義塾大学名誉教授 岸 由二 氏

編著者：鶴見川水害予防組合史増補復刻委員会

飯田助知(代表) 平井誠二 岸由二

発行者：特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク

東急東横線 網島駅西口・天一書房で販売中!

江戸時代から現代まで、一級水系鶴見川の流域治水の全貌がわかる<飯田、平井、岸鼎談>

記録、TR ネットの流域活動の歴史が追加収録されています。価格:2,000円(税込)

通販も可能。購入ご希望の方は、office@tr-net.gr.jp まで。

この対談も本書に収録 →

綱島の洪水ものがたり

北綱島小学校の学区の昔は、ほとんどが田んぼで、米作りができるとともに、鶴見川、早瀬川の洪水に苦しんできました。桃畑などがふえた時代、住宅がふえる時代となり、洪水をふせぐ人々の努力が続きました。

その努力の結果、1982年の洪水を最後に、洪水がない生活ができるようになりました。北綱島小学校に学ぶみなさんが、昔からの洪水をふせぐ人々のものがたりを知り、生活科、総合的な学習の時間、道徳、社会科、理科などで深く広く学ぶ手がかりとなることを願って、このお話を短くまとめました。

2022年10月 横浜市立北綱島小学校 元校長(第10代) 鷺山龍太郎

●昔の綱島の洪水

江戸時代、綱島は、鶴見川と早瀬川が出会う場所で、豊かな水と田んぼになる低い土地があり、お米づくりにはよい土地でした。

しかし、「早瀬川は、カエルがしょんべんしても洪水になる。」と言われ、雨がふると洪水になりやすい場所でした。

そのため、「綱島や新羽には嫁にやるな。」という言葉も残っています。

さむらいの時代、ここは徳川将軍の土地でしたが、洪水が多く、人々は苦しみました。綱島駅に近くで今でも桃づくりをされている池谷さんのご先祖は、苦しむ綱島の人々を代表して、老中様のかごに手紙をさしだし、洪水を止める工事のおねがいをしたと伝えられています。

このような、うったえ(駕籠訴)をすると死罪などになることもあったのですが、ゆるされ、工事のための少しのお金をいただくことができました。

将軍からのお金をもとにみんなで工事をすることはできましたが、洪水の被害をへらすほどの大工事はできませんでした。

大きな洪水があると、綱島は「湖」ようになってしまい、何日も水がひくことがありませんでした。せつかく実ったお米も、何日か水にひたったままだと、芽が出してしまうのです。

飯田さんの長屋門には、洪水のときに使ったとされる舟があるので、みなさんも見せていただきます。

●新しい時代の工夫 ~桃の里と長屋門前水作りの池のひみつ~

さむらいの時代が終わり、新しい時代になりましたが、洪水は続きました。

人々は、洪水の多い綱島の土に合い、台風の季節より前にとれる、「日月桃」と言う品種のおいしい桃を育てようになり、「東の神奈川、西の岡山」と言われるほどの桃の名産地になりました。また、冬には飯田さん

の長屋門の前の池で水も作られ、夏には町で売れるものになりました。昔の冬は、今より寒く、長屋門の前の池で厚い氷を作ることができたのです。

北綱島小正門近くの「遊学の舟」
女の子が橋をかかえている



1958年狩野川台風でのようす(鶴見区)「暴れ川の記憶」表紙から引用



江戸時代の台風被害の様子
安政3年(1858)江戸の被害 安政風聞集



飯田家住宅の長屋門にある和船
14代当主 飯田助知先生が紹介 2022年撮影

太平洋戦争の前(1938年)にも大きな洪水があり、飯田助夫衆議院議員は、横浜市長や国の大臣をよんで、綱島橋から湖のようになった綱島を見てもらいました。大臣たちも、何とかしたいと言って帰ったのですが、戦争が始まり、それどころではなくなりました。戦争の間に、「ぜいたく品の桃より米や麦を作れ。」という軍の命令もあり、戦後は、温泉街や住宅地になって桃畑は少なくなってきました。



太平洋戦争前1938年の洪水 天倉山付近

●鶴見川の「流域」で協力して洪水をふせぐ【鶴見川総合治水対策】

戦争が終わり、鶴見川のまわりには、家や工場がふえ、多くの人が生活するようになりました。このように町が変わったのに洪水がふせげなかったため、狩野川台風(1958年)では、何万件もの家が浸水しました。

降った雨が川に集まる地域を「流域」といいます。鶴見川流域で県や市の境を越えて、鶴見川の上流から下流まで多くの役所と市民、学者が知恵と心と合わせて大作戦を考え、1980年ごろから始めました。

作戦1【河川対策】 早瀬川や鶴見川は曲がっていた川をまっすぐにして、広く深く掘りました。その土砂で埋め立てられたのが大黒ふ頭です。

新横浜のスタジアムのあたりには、洪水をふせぐためにたくさん水をためる場所(多目的遊水地)ができました。

作戦2【下水道対策】 地下の巨大な管に雨水を大量にため、町に降ったままの雨水や下水からあふれる水(内水)を出すためにポンプ場が働くしくみも作られています。

作戦3【流域対策】 雨水が一度に川に集まらないように、鯛ヶ崎公園の広場には水をためるしくみがありますので、見てみましょう。こうしたしくみは、学校の校庭やマンションの地下など、町田市から鶴見区まで、5000箇所も作られていて、雨水をためて洪水を防ぎます。

綱島市民の森などは、木の根と土が水をため、雨水が一度に川に集まらないようにします。鶴見川流域には、水源の町田市から横浜市まで、たくさんの森が市民の努力により守られているのです。

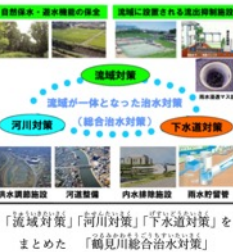
こうして、「河川対策」「下水道対策」「流域対策」を合体させて、「鶴見川総合治水対策」が行われました。その結果、1982年の洪水を最後に、大きな洪水は起きなくなりました。(2022年10月現在)

2019年の台風19号では、となりの多摩川で洪水がありましたが、鶴見川は、新横浜の多目的遊水地が水をたくわえ、町への洪水が起きませんでした。こうして、鶴見川総合治水対策は、全国の手本となったのです。

●これまでなかったような大洪水にそなえる

今、地球温暖化により、これまでになかったような大洪水が世界中で起きるようになりました。「港区区洪水ハザードマップ」では、北綱島学区区は、最大で3m、2階までの浸水も予想されています。「港区区洪水ハザードマップ」や北綱島小学校地域防災拠点運営委員会の「水害・土砂災害の避難について」などをと、わが家の守りたいもののために、自分と家族が早めに動き始める「マイ・タイムライン」などを考え、命と大切なものを守るそなえをしていく必要があります。

参考文献 鶴見川水害予防組合史増補復刻版(2022年度版) 岸 由二「生きのびるための流域思考」ちくまプリマー新書 港区区 綱島小学校校舎資料「あばれ鶴見川にどむ」 飯田助知のお話 池谷様のお話 この文章は、2013年当時の校長鷺山が飯田助知先生にご監修いただいたて書いた教材、「綱島洪水とたたかいかい」もとになります。(ホームページで検索できます) この教材をどの学年でも使えるように、短くまとめたと思います。飯田助知先生からいただいた「鶴見川水害予防組合史増補復刻版(2022年度版)」と、鶴見川流域ネットワーク代表理事 岸 由二先生の本とお話をもとに、洪水の歴史と新たに「鶴見川相当治水対策」を紹介してまとめました。 鷺山



水害・土砂災害の避難について

市町村が出す**避難情報**と国や都道府県が出す**防災気象情報**が5段階に整理されました。

警戒レベル-4で**避難指示の対象区域の方は全員避難!!** (何の防災気象情報によって、どこに発令された**避難情報**がよく確認してください!)

警戒レベル	避難情報	防災気象情報	避難行動等	避難所 他
	市町村が発令 比較的エリアが限定	国・気象庁・都道府県 が発表 比較的エリアが広い		
警戒レベル5 既に災害発生	緊急安全確保 災害が実際に発生していることを把握した場合に可能な範囲で発令 (市町村が発令)	警戒レベル5相当情報 <input type="checkbox"/> 氾濫発生情報 <input type="checkbox"/> 大雨特別警戒 等	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとります。	⇒すでに災害発生いのちを守る行動を警戒レベル5は出ない可能性もある
警戒レベル4 対象区域の方は 全員避難	避難指示(緊急) 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を要する場合等に発令 (市町村が発令)	警戒レベル4相当情報 <input type="checkbox"/> 氾濫危険情報 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報 等	避難指示対象区域の方は、速やかに 全員避難 。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	対象者は避難場所へ
警戒レベル3 対象区域の方で 高齢者等は避難	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 避難準備 (市町村が発令)	警戒レベル3相当情報 <input type="checkbox"/> 氾濫警戒情報 <input type="checkbox"/> 洪水警戒 等	高齢者等避難開始・避難準備対象区域の方で、避難に時間を要する人(高齢者の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難しましょう。その他の人は準備を整えましょう。	対象者は避難場所へ 指定緊急避難場所 駒林小学校 高田東小学校 日吉台小学校
警戒レベル2	これは住民が自主的に避難行動をとるための参考とする情報	<input type="checkbox"/> 洪水注意報 <input type="checkbox"/> 大雨注意報等 (気象庁が発表)	避難に備え、ハザードマップ等により自分の 避難行動 を確認しましょう。	※上記以外に任意の避難場所として、 綱島地区センター・上町会館 を開設することがあります。(開設する避難場所は災害規模によって異なります。)
警戒レベル1		<input type="checkbox"/> 早期注意情報 (気象庁が発表)	災害への心構えを高めます。	

北綱島小学校については、鶴見川や早瀬川氾濫時の洪水浸水想定区域となっており**洪水時には指定緊急避難場所として開設することは困難**と区(市)では判断しており、避難場所を開設することは原則できません!!

【警戒レベル-3】や【警戒レベル-4】で地域のみみんなで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう!!

避難に関する情報は、市や区のホームページ、ツイッター、港北防災気象情報アプリ、テレビのdボタンで確認することができます。
北綱島小学校地域防災拠点運営委員会

◆ **風水害時の避難行動(避難のサイン)を確認しましょう!**

小石がバラバラ落下するなどのけ崩れの前兆現象や、下水道などからの浸水、河川の氾濫情報、避難勧告、避難準備・高齢者等避難開始といった「避難のサイン」を参考に「**自らの判断**で「**自らの命は自らで守る**」という考えのもと、危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう!

避難のサイン(情報は早めに)

下水道などからの浸水
 河川氾濫の危険

・テレビ・ラジオ・横浜市HPなどで気象情報に注意しましょう。
・横浜市HPなどで河川の状態を確認しましょう。
・外の様子に注意しましょう。
※無溝やマンホールから大量に水があふれる。

■横浜市防災情報メール
<http://www.bousai-mail.jp/yokohama/>
身近に迫っている緊急情報をリアルタイムに知らせます。
QRコードから空メールを送信してください。


土砂災害の危険
小石がバラバラ落下
斜面に湧水が発生
斜面に亀裂が発生など

避難勧告
避難準備
高齢者避難開始

などがでたら...

避難行動(早めに行動)

安全な場所へ避難
指定緊急避難場所等の避難場所、近隣の高台、土砂災害警戒区域外の親せきの家など



← 水平避難

堅牢な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難

↑ 垂直避難

建物内の安全な場所へ避難
夜間や危険が差し迫っている場合など屋外へ避難するとかえって危険な場合

↑ 斜面の
垂直
避難

↓ 斜面の
反
避難

※ **ご自宅に応じた避難行動をとります!**

- ①ハザードマップを活用しご自宅や周辺の災害の危険性(土砂災害・洪水・高潮の危険)を確認します。
- ②災害の危険性及び浸水深等を考慮し、指定緊急避難場所等の避難場所へ避難するか垂直避難で大丈夫か確認します。
- ③近隣の避難場所(高台や垂直避難施設)を事前に確認しておきます。
- ④避難勧告・避難準備・高齢者等避難開始や前兆現象等があった場合には速やかに避難を開始します。
- ⑤停電に備え懐中電灯やラジオを用意しましょう。

※ **指定緊急避難場所について**

指定緊急避難場所は、切迫した災害の危険から一時的に逃れるための場所で、「洪水」、「土砂災害」、「高潮」、「地震」等の災害の種別ごとに地域防災拠点である市立小学校を指定しています。災害の種別によって、避難できる拠点とできない拠点があるので、日ごろからよく確認しておくことが重要です。また指定緊急避難場所の開設は、災害時、行政が避難勧告等を発令する場合に災害規模や状況に応じて決定します。

◆ **災害の種別によって避難できる拠点と避難できない拠点があります!**

地震時 避難場所 ⇒ 北綱島小学校地域防災拠点 (震度5強以上の時)

水害時 避難場所 ⇒ 高田東小学校・駒林小学校・日吉台小学校

※この他 綱島地区センター・上町会館を開設する場合があります

水害時 区が指定しない限り 北綱島小学校は、避難場所になりません!!

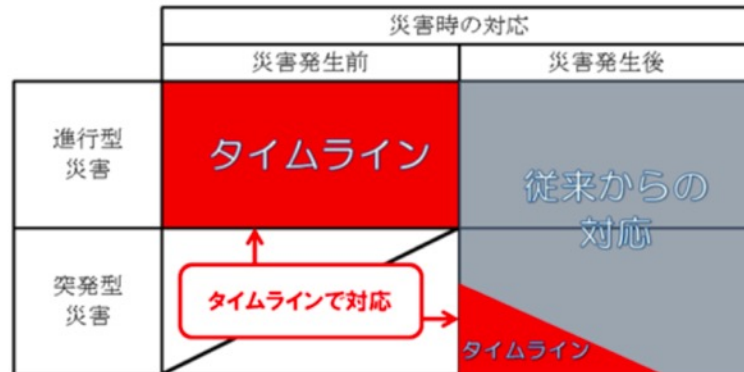
※ 地域防災拠点の運営母体は 住民で構成する拠点運営委員会と避難者本人となります。

小学校は 施設管理者・学校再開準備班となりますが 運営母体は市より要請を受けた市民のボランティアによるものです。

「タイムライン」（時系列の行動計画）とは何か？

- 米ハリケーン・カトリーナの失敗を反省し、改善されたハリケーン・サンディ対応を国土交通省が調査。
- 行政、公共機関等の時系列の行動計画が効果的だったことを報告。
- 「タイムライン」の名付け親は調査団の松尾一郎氏
- 2022年6月に「防災基本計画」に行政のタイムライン作成を示す。
- 風水害だけでなく、地震に対してもタイムラインを位置づけ。
- 松尾氏は、紀宝町、足立区等でコミュニティ・タイムラインを指導。

図1 災害対応におけるタイムラインの位置づけ



東京大田区にある鷺山自宅マンションで
風水害タイムライン・地震タイムラインを作成
理事会・防災委員会で検討しHPにも公開。

(図表13) **メイツ大森西 風水害コミュニティ・タイムライン**

【2022年4月現在】メイツ大森西管理組合理事会・防災委員会



警戒レベル	1	2	3	4	5	
警戒レベル・情報・発令	気象庁等	早期注意情報(降雨の可能性)	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報
	氾濫		氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
	キキウ 危険度分布		注意	警戒	非常に危険 極めて危険	
大田区	状況	「今後気象状況悪化の恐れ」	「気象状況悪化」	「災害のおそれあり」	「災害のおそれ高い」	「災害発生又は切迫」
	発令	「災害への心構えを高めるべき行動」	「自らの避難行動を確認」	「危険な場所から高齢者等は避難」	「避難指示」「危険な場所から全員避難」	「命の危険 直ちに安全確保」※必ず安全確認は必要
居住者マイ・タイムライン	浸水域(1階)の高齢者等	最新情報に注意	浸水域、急避難場所や避難経路、避難タイミング等を確認	高齢者等避難開始	避難完了	垂直避難等 少しでも命の助かる行動 (最終的には住民自らの判断)
	浸水域(1階)の居住者等	自主的な避難先(親戚・知人宅やホテル・旅館等)の調整		「自主避難」開始 タイミング		
	(1階)のペット	縁故避難先等検討 同行避難場所確保		できれば縁故避難 ケーンに入れ開校小学校避難所へ同行避難		
	2階以上居住者	情報収集	停電・トイレ対策 水・食料等備蓄確認		室内安全確保 停電対策・トイレ対策 浸水階住人の保護に協力	
マンションコミュニティ・タイムライン	理事会・防災班	浸水想定階住民に呼びかけ	HP・ポスターで警戒呼びかけ 強風対策	対策本部開設＝理事長・副理事長宅 浸水想定階居住者に声かけ	浸水階住人を階上で保護 可能なら近隣住民保護	対策本部＝集会所・管理室 「浸水開始」を館内放送伝達 (住民に協力呼びかけ) 自動ドア開放 救出活動 浸水対策
	地上P自家用車 電動自転車 タワーパーキング 自家用車	浸水域外のP確保	浸水域外のP確保	地上P自家用車移動開始 (各自の自己責任) 電動自転車各自室内避難可	空き暗証番号(操作盤扉内側に貼り付け) 呼び出し、自分の車を階上へ	
管理人 管理会社	台風等警戒のポスター掲示		浸水想定階居住者に声かけ	高齢者等避難の確認と対策本部と情報共有	浸水対策 管理室貴重品・重要書類避難	

2020年
太尾小学区の大倉山連合町内会会長から
港北区総務課の「防災キャラバン」として
「風水害」に対する講演・ワークショップの依頼があった
3回延期するも、2022年12月に実施。



(図表14) ○○連合町会地区 風水害タイムライン(試案)

警戒レベル	1	2	3	4	5	
警戒レベル・情報・発令	気象庁等	大雨 早期注意情報(観測の可能性)	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報
	氾濫		氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
	キヤクル 危険度分布		注意	警戒	非常に危険 極めて危険	
	○市長	状況 「今後気象状況悪化のおそれ」	「気象状況悪化」	「災害のおそれあり」	「災害のおそれ高い」	「災害発生又は切迫」
居住者タイムライン	発令 「居住者等がとるべき行動」	「災害への心構えを高める」	「自らの避難行動を確認」	「危険な場所から高齢者等は避難」	「避難指示」 「危険な場所から全員避難」	「命の危険 直ちに安全確保」※必ず安全確認は行わない
	浸水域の高齢者等	最新情報に注意	浸水域、急避難場所や避難経路、避難タイミング等を確認	高齢者等避難開始	避難完了	垂直避難等 少しでも命の助かる行動 (最終的には住民自らの判断)
	浸水域の居住者等	自主的な避難先(親戚・知人宅やホテル・旅館等)の調整		「自主避難」開始タイミング高齢者等へ避難声かけ・避難支援	「立退き避難」安全確保可なら 「屋内安全確保」	
	ペット	縁故避難等	同行避難場所確保 フード、必要物資順準備	同行避難場所確保	ケージに入れ避難所へ同行避難	安全確保
	自家用車	浸水域外のP確保		浸水域自家用車の域外避難開始		自身安全確保
	○連合町会 災害対策本部	連絡体制確認	高齢者避難準備 呼びかけ 避難の方針を伝達(SNS等)	連合町会災害対策本部(A小中学校)設置 高齢者避難呼びかけ	各自治会等にSNS等で呼びかけ 災害状況把握	垂直避難等呼びかけ 避難所運営支援
○○地区コミュニティタイムライン	各自治会	連絡体制確認	高齢者避難支援の準備	自治会災害対策本部設置	避難声かけ 避難確認	垂直避難等緊急安全確保
	各マンション 理事会・自治会	浸水想定階住民に呼びかけ 浸水深度上にある集客室は避難所に開放準備・電気室等水防対策		浸水想定階の高齢者等避難確認 自家用車避難	浸水想定階居住者の避難・保護体制確認 声かけ	浸水階住民を階上で保護 可能な近隣住民保護
	消防団等	警戒・準備		司令により巡回、または水防団として水防活動		避難 自身安全確保
	民生委員等	区域の高齢者等把握	避難準備声かけ	声かけ 自治会・連合町内会と逃げ遅れた高齢者等の情報共有		避難 自身安全確保
	A小学校 B小学校 C中学校	児童生徒・保護者への防災教育 休校の判断についての指示 登下校マニュアルの確認 天候により下校		区役所職員 校長等待機 浸水域物資を階上に移動	避難所開設支援	緊急安全確保支援 避難所運営愛支援
	事業所等	商品・機器の保護計画	浸水域外駐車場開放		全員避難	緊急安全確保

ある連合町内会会長の依頼で、鷺山がワークショップの素案資料として試作したもの。自治会・マンション・民生委員、学校、事業所のグループで、これをベースに、できること、できないこと、やるべきことを協議するワークショップを計画している。

地区に存在する連合町内会、自治会、マンション、学校、民生委員等の OUR TIMELINE を グーグルフォームで入力し統合

想定最大規模浸水深度*

- なし
- 0.0~0.5m未満
- 0.5~3.0m未満
- 3.0~5.0m未満
- その他

土砂災害警戒区域

- あり
- なし
- その他選択肢 3
- 選択肢 4

警戒レベル1「災害への心構えを高める」での対応(優先する2項目)*

- 情報収集
- 連絡体制確立
- 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ
- 区域の高齢者等把握
- 休校・休業措置の決定
- 施設・設備・重要物の移動
- 階上駐車場の開放準備
- 自動車等の避難用駐車場確保
- 電気室・浸水被害施設の保護
- その他...

...

警戒レベル2「自らの避難行動を確認」での対応(優先する2項目以内)*

- 情報収集
- 連絡体制確立
- 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ
- 区域の高齢者等把握
- 休校・休業措置の決定
- 施設・設備の移動
- 階上駐車場の開放準備
- 自動車等の避難用駐車場確保

(2) タイムライン部分

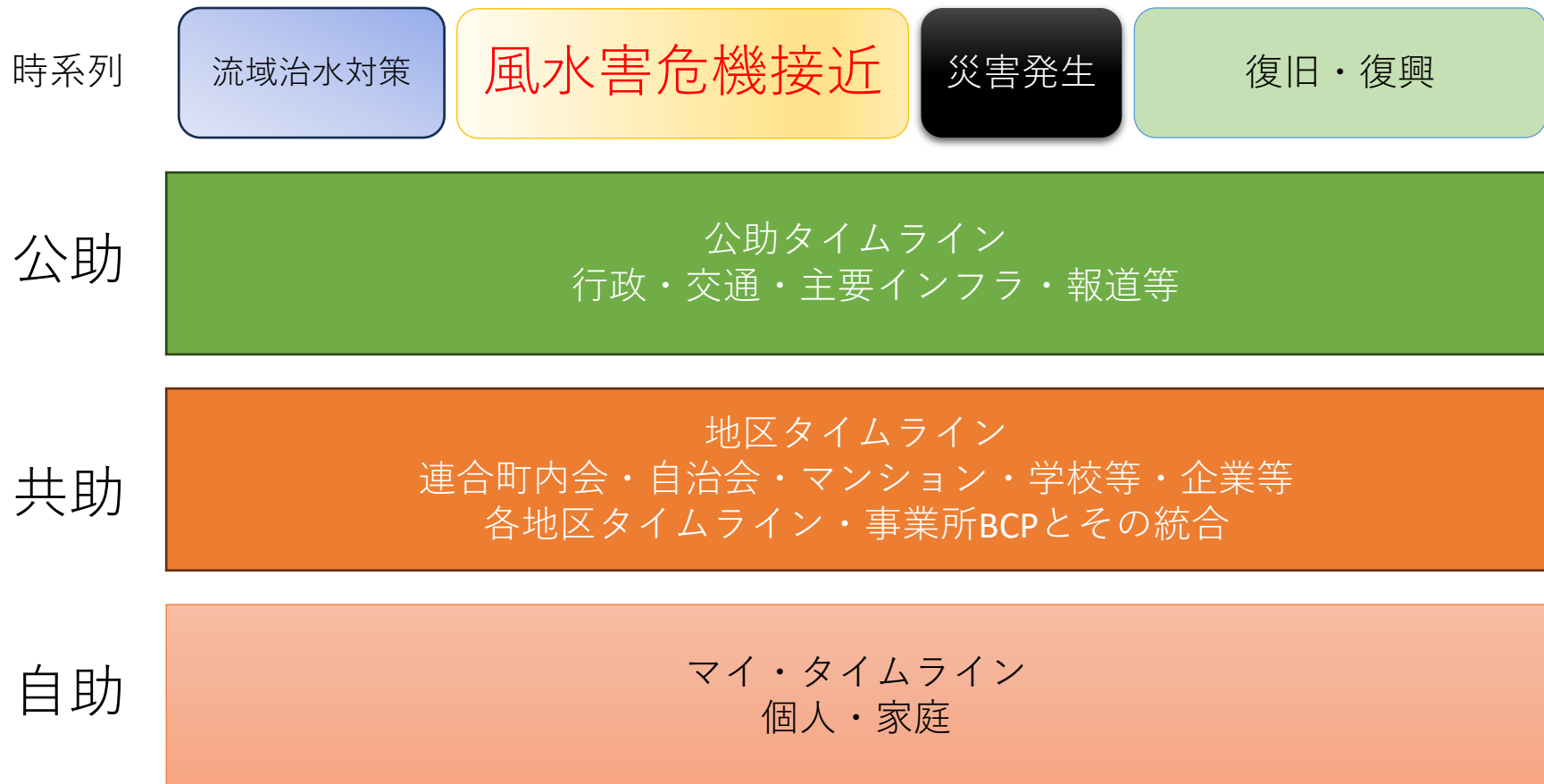
港北区総務課防災キャラバン大倉山地区連合町会2022「タイムライン」研修
 (研修データ)「大倉山地区 風水害タイムライン」2022.12.10

研修参加者データ				風水害タイムライン(事前防災行動計画)						
タイムラインコード・組織名	組織コード	想定最大浸水深	土砂災害警戒区域	緊急安全確保で避難したい建物	想定する「指定緊急避難場所」	警戒レベル1「災害への心構えを高める」での対応(優先する2項目)	警戒レベル2「自らの避難行動を確認」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル3「危険な場所から速急避難」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル4「危険な場所から全員避難」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル5「緊急安全確保」での対応(優先する2項目以内)
連合町会本部	101	0.5~3.0m未満	なし	自宅建物2階以上	自宅・自建物	情報収集、連絡体制確立	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、高齢者等避難の呼びかけ	災害対策本部開設、避難場所開設	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保優先、救出活動
町会グループ	204	3.0~5.0m未満	その他選択区3	自宅建物2階以上、近くのマンション(受け入れてくれれば)	自宅・自建物	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	情報収集、連絡体制確立	情報収集、災害対策本部開設	自身の安全確保、連絡体制確立	自身の安全確保優先、避難所開設・運営支援
マンショングループ	302	3.0~5.0m未満	なし	自宅建物2階以上、大綱小学校	港北公会堂、自宅・自建物	情報収集、連絡体制確立、区域の高齢者等把握、自動車等の避難用駐車場確保	自動車等の避難用駐車場確保、電気室・浸水被害施設の保護、高齢者等避難の呼びかけ	浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援、電気室・浸水被害施設の保護	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保優先、救出活動
	304	3.0~5.0m未満	その他選択区3	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	連絡体制確立、高齢者等避難の呼びかけ	避難場所緊急開放、高齢者等避難の呼びかけ	避難所開設・運営支援、避難場所緊急開放
	307	3.0~5.0m未満	なし	自宅建物2階以上、太尾小学校	自宅・自建物	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	区域の高齢者等把握、電気室・浸水被害施設の保護	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	連絡体制確立、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先、避難所開設・運営支援
	308	0.5~3.0m未満	なし	大綱小学校	自宅・自建物	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、自家用車等避難	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、自家用車等避難	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、自家用車等避難
民生委員グループ	401	0.5~3.0m未満	なし	大綱小学校	大豆戸小、港北公会堂	情報収集、区域の高齢者等把握	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	情報収集、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保、連絡体制確立	自身の安全確保優先、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ
	402	3.0~5.0m未満	その他選択区3	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先、高齢者等避難の呼びかけ
社会福祉協議会グループ	403	3.0~5.0m未満	なし	大綱中学校、大綱小学校、太尾小学校	大豆戸小	情報収集、連絡体制確立	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	避難場所開設、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保	救出活動、浸水階住民等を階上に避難誘導
地域防災拠点等グループ	501	3.0~5.0m未満	あり	太尾小学校	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	高齢者等避難の呼びかけ	要支援者避難	自身の安全確保、避難遅れ確認	自身の安全確保優先
学校関係グループ	602	3.0~5.0m未満	なし	大綱中学校	菊名小	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、休校・休業措置の決定	連絡体制確立、災害対策本部開設	自身の安全確保優先、自衛水防活動
	603	3.0~5.0m未満	なし	大綱小学校	垂直避難	情報収集、連絡体制確立	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、施設・設備の移動	休校・休業措置の決定、水防活動	避難場所緊急開放、スタッフ状況の確認と対応命令	浸水階住民等を階上に避難誘導、情報収集及び市教委との連絡
	604	0.5~3.0m未満	なし	太尾小学校	大豆戸小	情報収集、施設・設備・重要物の移動	情報収集、休校・休業措置の決定	休校・休業措置の決定、施設・設備の移動	自身の安全確保、避難場所開設	自身の安全確保優先、避難所開設・運営支援
	701	3.0~5.0m未満	なし	大綱小学校	大綱小学校	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、休校・休業措置の決定	スタッフ帰宅、施設・設備の移動	自身の安全確保優先、スタッフ帰宅

提 言

家庭防災への提言	1 地域のリスクを知る。(マイTLの前に「地区TL」) (2) 公助TL→共助TL→自助TLの連携 を。
地域防災への提言・支援	(1) 「地区タイムライン」「統合ツール」の研究実践 (Googleフォーム利用)によるタイムライン作成研修。 実践 連合町会で実施 かなり実用的であろう。 気づき→参画(TLツール)→行動→減災
自治体防災への提言	(1)「防災基本計画」6月改定による、あらゆる災害への 行政等のタイムラインの実質化 。
国政等の理解	1 内閣府推進「地区防災計画」と国交省推進「タイムライン」との整合 。 2 「気候非常事態宣言」

公助・共助・自助タイムラインの統合による防災の未来像



この統合により、行政、各組織、家庭が、流域における風水害の向き合い方を自ら学び考える
→ 「防災文化の向上」進むのではないか

地域をつなぐ「地区タイムライン」

公助・共助・自助タイムラインの統合による防災の未来像

「防災塾・だるま」塾長 Cサロン代表 鷺山龍太郎

ご清聴ありがとうございました